

どの子どもも明るく楽しく 学び合える学校生活のために

学校では「わからなかったことがわかる」、「できなかったことができる」喜びを子どもたち一人一人が味わい、自分らしさを生かせる学校生活のために、子どもに合わせた教育を進めています。

市内小・中学校では、特別支援学級や「ことばの教室」、通級指導教室を設けています。校内の特別支援教育コーディネーターを中心として、保護者の皆さんや医療・福祉などの関係機関と手を携えながら、どの子どもも、友達と一緒に生き生きと学び合うことができるように努めています。

家庭と学校との架け橋 スムーズな就学を目指して

教育委員会では、入学式までに行われる行事や、検診内容、その後の就学相談の方法を記入した「就学情報パンフレット」を作成し、就学時健康診断のときに各家庭に配付しています。

「旭市就学支援ステップシート」を作成し、子どもの様子や保護者の思いを保育所、幼稚園、小・中学校へと引き継ぎ、共有しながら、子どもの成長の手助けをする取り組みも行っています。

子どもの発達や就学先についての悩みは 「ステップ相談窓口～巡回相談」へ



市には子どもの発達や就学など、困っていることについての相談を直接受け付ける窓口があります。巡回相談員が保育所、幼稚園、小・中学校などに出向いて、子どもに必要な支援を話し合い、内容を伝える巡回相談も行っています。

心配事があったら、一人や家族で抱え込まずに気軽に相談してください。

ステップ相談窓口

巡回相談ダイヤル(学校教育課指導班内・☎55-5726)

第11回 みんなの学校自慢



歌声響く囀鳴小

囀鳴小6年

竹内 心海さん(左)

高野 愛子さん(中)

嶋田 萌桃さん(右)

356人の囀鳴っ子が歌う校歌は迫力満点です。歌っている私たちも気持ち良く、体育館いっぱいに響く伸びやかな歌声に、私たち自身が聞きほれてしまいます。

私たち囀鳴小の自慢は、歌声の響く学校です。昨年11月には歌声集会在開催されました。音楽の授業で学習した曲を各学年が2曲ずつ歌い、秋の一日を歌でつづりました。各パートが重なり合う響きや、実りの秋に感謝してリズムカルに歌い踊る友達の姿に、表現する喜びを感じました。全校合唱のときには、音楽部が伴奏をしました。美しい歌声と楽器演奏のハーモニーが清らかに響き渡りました。演奏を終えたときには、その場にいる



みんなの気持ちが一つになった歌声集会

みんなの気持ちが一つになることを強く感じました。

また和楽器の箏の演奏を学ぶ機会もあり、箏曲クラブも活動しています。市民音楽祭や病院、シルバーケアセンターなどで演奏したり、箏に合わせて歌や舞いを披露したりしました。ほほ笑みを浮かべながら楽しそうに聴く人もいれば、涙を流しながら聴いてくれる人もいました。私たちの思いが相手に伝わり、とてもうれしかったです。そして音楽の持つ力を知るとともに、音楽に関わることができて本当に良かったと思いました。

このように、囀鳴小は全校児童の美しい歌声とさまざまな楽器の音色が響く学校です。私たちは、そんな囀鳴小が大好きで、自慢の学校です。